慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | リードバンク・ポジションの分析 - 国際シンジケートローンにおける邦銀の場合 - |
| Sub Title | |
| Author | 小松直也(Komatsu, Naoya)<br>村井俊雄 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1984 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1984年度経営学 第337号<br>複写許諾が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001984-0337 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0337

学生氏名　小松直也
（株式会社協和銀行）
所属ゼミナール　鈴木貞彦研

主査　村井俊雄
副査　関谷　章
鈴木貞彦

# リードバンク・ポジションの分析
## ―国際シンジケートローンにおける邦銀の場合―

邦銀をとりまく環境は現状厳しいものがあるが、その中で国際業務、就中シンジケートローンでリードバンクとして活動してゆくことの重要性は、今後ますます増大してくると思われる。そこで将来の戦略形成を考える上でも、これまでの邦銀のこの分野における活動を分析しておくことには大きな意義がある。このような問題意識に立ち、本研究では、過去3年間邦銀がリードバンクとして参加した外貨建シンジケートローンを対象に如何なる要因が有効に働くかの分析をなした。

方法論的には、既存の文献研究により、銀行の持つ経営的側面からの要因抽出を行い、これに基づき仮説を構築した。そして各仮説に対応する測定可能な変数を設定し、単回帰式を用いて検証をなした。次に、4区分された仮説に割りあてられた変数をパッケージ化し、重回帰式による影響力を見た。最後に全変数を対象として、前進選択法による重回帰式の導出を行った。この重回帰式の中で各変数の持つ相対的な影響度について、リードバンクにとっての外部環境である市場状態との対比の上で、検討を加えた。

本研究においては、データ入手の制約からくる仮説及び変数自体の制限、前進選択法の利用、変数間の独立性などの問題があり結果の解釈にあたって限界はあるものの、今後の邦銀の国際化戦略について、1つの示唆を与えるものと思われる。